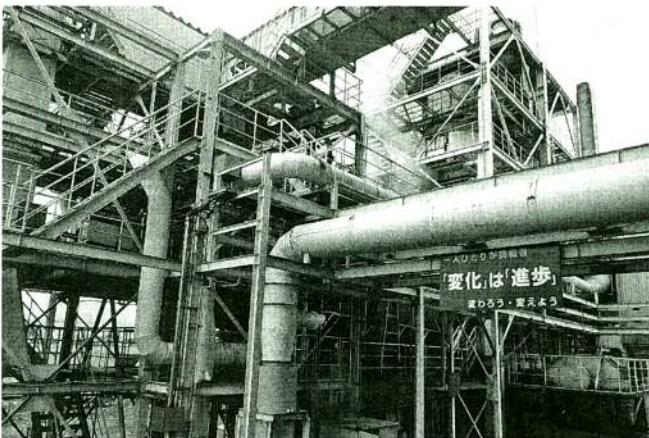


# ATグループで順調な「再スタート」



感燃性廃棄物の焼却処理などを手掛けている



堀切勇真社長

キヨスミ産研

山形県内で廃棄物処理を行うキヨスミ産研（山形市）は今年度からATホールディングス（堀切勇真社長）の傘下に入ったが、グループの一員として順調な「再スタート」を切った。業績については昨年度も好調な数字を挙げているが、今年度に入つてさらなる業務や組織体制の改善に取り組んでいる。各部門から代表を選出し社員によるプロジェクトチームを設立。さまざまな業務改善案を募り、徐々に成果が表れている。グループ間での人材交流などもすでに開始。さらには各社の事務所を取り合いでつなぎ、常時それぞれの状況を確認できるようにして、グループでの一体感を高めている。新最終処分場建設も計画しており、今後は営業力を強化しさらなる事業拡大を図つて行く考えだ。

## 社員によるPT設置し 業務改善図る 新処分場建設も計画

同社は1971年に創業。収集運搬から破碎、焼却といった中間処理、管理型最終処分場による最終処分と、山形県内で珍しい廃棄物を一気通

貨で処理できる総合廃棄物処理会社であることが最大の特徴となってい

る。廃プラスチック、泥炭などの他、感燃性廃棄物の焼却

処理なども手掛けてい

る。4月に就任した堀切

社長は、「廃棄物を一気

通貫で処理でき、受け入

れ可能な廃棄物の種類も

幅広く顧客のさまざま

ニーズに対応できるのが

強み」だとする。3月末

にアドバンティク・レビ

ュース、三協興産などの

廃棄物処理会社を傘下に

持つATホールディングスが全株式を取得して

グループ会社化した。

最近になってグループ

会社間の交流が加速的

に進みだしている。その

会社をテレビ会議のシス

テムでつなぎ、各社の状

況を毎時確認できるよう

にした。これを活用して

コミュニケーションを取り

、それぞれの業務への

取り組み方を参考にしな

がら、グループの「一体感

を醸成して行っている。

また、堀切社長を中心

に経営陣が組織の見直し

や業務改善を進めている

他、各部から代表を選出

して横断的なプロジェクト

チームを編成。社員に

による業務プロセスの改

善に向けた提案を募っ

ている。その提案の中で

の配置変更だ。「従来の

配置では他部門の社員と

のコミュニケーションが

不十分な面があつた。も

つと現場の作業員と事務

員などがお互いの仕事を

知るべきだという提案が

あった」ということで、

8月に配置換えを行つ

た。堀切社長は「全従業員の継

続雇用と給与のベースア

ップ」を約束した。「グ

ループ化の話を進めてい

た時は、社内にやや閉塞

感があり、会社を良くし

たいという社員の気持ち

が渾身でいたを感じ

たので、とても良いタイ

ミングだったと思う。こ

の会社の課題は業績面で

ではなく、社員の待遇、顧

客の待遇、顧客

とのコミュニケーション

が渋卷いていたを感じ

たので、とても良いタイ

ミングだったと思う。こ